

世界連邦 Newsletter

2015年 7月28日
第630号



発行所
世界連邦運動協会
World Federalist Movement of Japan

〒110-0015 東京都台東区東上野 1-20-6 丸幸ビル 3F
電話 (03) 6803-2114 FAX (03) 6803-2117
E-mail: info@wfmjapan.org Twitter: wfmjapan
URL: http://www.wfmjapan.org/
郵便振替 00190-6-29964
1部 100円 (年6回 奇数月1回 28日発行)

国会委員会と自治体協議会が初の意見交換会



衆議院第二議員会館第六会議室にて

世界連邦日本国会委員会と世界連邦宣言自治体全国協議会による意見交換会が7月9日、衆議院第二議員会館第六会議室で行われた。

開会后、まず国会委員会顧問の谷垣禎一氏が、「世界連邦運動は、中東和平プロジェクト・国際司法裁判所・国際刑事裁判所・国際連帯税など、非常に意味のある活動をしてきた。10月に行われる日本大会を私も楽しみにしている」と挨拶。次に横路孝弘会長が、2005年の国会決議・2007年の国際刑事裁判所加入、国際連帯税など、国会での取り組みについて紹介した。続いて宣言自治体全国協議会の山崎善也会長（京都府綾部市長）が、イスラエルとパレスチナの紛争遺児の交流事業「中東和平プロジェク

ト」についての話の中で、参加遺児による「私たちの親の世代にはまだ紛争は終わらないかも知れないが、私たちの世代でこの紛争を終わらせたい」という言葉を紹介した。併せて10月31日に行われる日本大会の案内がなされた。

綾部市の安藤和明市議会議長からの挨拶の後、宣言自治体全国協議会の事務局より、自治体協議会における取り組みについて説明があった。

井上義久副会長、江田五月顧問、尾立源幸常任理事、池田道孝衆議院議員から質問・意見などが交わされた。

この意見交換会は翌日（7月10日）に東京都の小金井市で宣言自治体全国協議会総会が行われることを機に初の試みとして開催されたものである。今後は宣言自治体全国協議会総会の開催地にかかわらず、年1回はこのような会合を催すべきだとの意見もあった。

（塩浜 修）

世界連邦宣言自治体全国協議会が総会を開催



小金井宮地楽器ホールにて

世界連邦宣言自治体全国協議会（会長、山崎善也・綾部市長）の平成27年度総会が7月10日、東京都小金井市の小金井宮地楽器ホールで行われた。

山崎会長から開会挨拶とともに、前日の国会委員会との意見交換会、10月31日に行われる日本大会の紹介があった。開催地の小金井市の稲葉孝彦市長から挨拶があり、昨年3月10日を平和の日に制定したこと、駅の北側に世界連邦記念碑が置かれていることが紹介された。（2頁参照）



海部俊樹・世界連邦推進日本協議会会長の祝辞を阿久根武志事務局長が、また横路孝弘・世界連邦日本国会委員会会長の祝辞を塩浜修事務局長がそれぞれ代読した。

議事は前年度事業・決算報告、本年度事業・予算案、役員改選（全員再任）などが全て原案通り承認された。報告の中で、「世界平和と難民救済のための自治体職員1人

100円募金」の紹介があった。昨年度は667万余円の募金が集まったが、同募金に応えた151自治体の

うち協議会加盟自治体は36であり、残る115自治体は協議会に加盟していないにも拘わらず募金の趣旨に賛同・協力したものである。集まった募金は国連 UNHCR 協会、日本ユニセフ協会、世界連邦推進事業基金に充てられた。そして世界連邦推進事業資金は昨年羽村市の「世界連邦推進・広島平和施設見学会」に適用された。

最後に来年度総会が京都府宇治市で行われることが承認され、同市の本城陽一・総務部副部長より挨拶があり、閉会した。

(土田 哲生)

研修会 「中東情勢から見る世界平和」



上村 司 外務省中東アフリカ局長

世界連邦宣言自治体全国協議会の総会に引き続き、研修会が一般公開で行われた。小金井在住の上村司・外務省中東アフリカ局長を講師として「中東情勢

から見る世界平和」という演題で講演が行われた。概要は次のとおり。

外務省入省以来、30数年ほとんどを中東に関わってきた。中東と聞くとすぐ白い服を身にまとってベールで顔を隠した人を想像しがちであるが、もっと多種多様な民族が住んでおり、それだけに国家統治が難しい。中東＝ムスリムのように考える人もいるが、実はムスリムの人口の多くはインドネシア、インドの一割、パキスタン、バングラディッシュで占められており、中東よりむしろアジアの方が多く、世界中で急速に増えている。他方、ユダヤ教徒は世界全体で1500万人、中東に600万人住んでおり、人口で言うと桁が違って少ないものの、ご存知のように大変強い影響力を持っている。

この講演では、ウンマ＝イスラム共同体（第1階層）→トルコ主義・アラブ民族主義・ペルシャ主義（第2階層）→国民国家（第3階層）→部族（第4階層）の4つの階層に分けて考えることで、この地域のニュースなどについて考えるヒントにしたい。

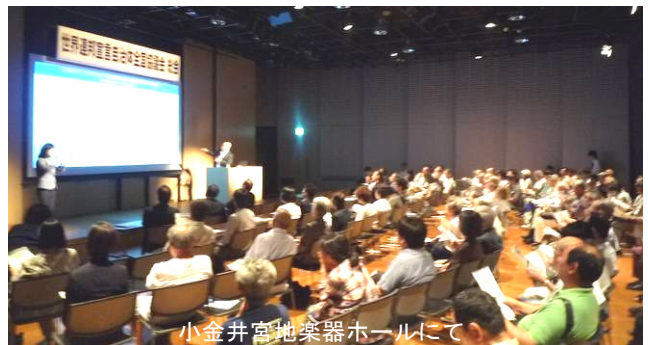
イラク・エジプト・サウジ・シリアは第3の階層、国民国家にあたる。しかし、日本人の感覚からすると、国というより県のイメージに近い。日本人は国外に電話する場合は外国語を使うが、これらの国の人々は互いに電話する時に国内と同じアラビア語で話す。第2階層のアラブとは、アラビア語を話す人々

である。日本人の感覚にとっては全国知事会のようなもので、イラク・エジプト・サウジ・シリアなどは県のようなイメージだ。

例えば巨人一阪神戦では、それぞれのファンが互いに激しい挑発を行う。翌日になでしこジャパンの試合があれば、巨人ファンも阪神ファンも一気に日本人として一緒になる。同じように、サッカーでエジプト・イラク戦があれば互いにヒートアップするが（第3階層）、翌日パレスチナで何か起こると、一気に同じアラブの顔（第2階層）になる。

中東では、アイデンティティが場面により変わることが特徴である。What is identity? Who are you? と聞かれた場合、日本人はI am Japanese と答えるのが普通で、基本的に日本人という共通のアイデンティティを持っている。ここが中東と異なる。

また、日本文化を誇りに思っている、「数百年前、日本文化こそが世界の中心だった」とまで考えている日本人はいない。しかし、イスラムには、自分たちが1000年前に世界の中心だったと考える人が多くおり、またそれは歴史的事実である。少し昔の歴史の教科書だと、古代ギリシア・ローマの文化がそのまま近代ヨーロッパに引き継がれたかのような印象があった。しかし実際は中世ヨーロッパには魔女狩りなどの暗黒の歴史があり、その時代に古代ギリシア・ローマの文化を引き継ぎ世界の中心となったのはイスラムである。ウンマ＝イスラム共同体（第1階層）はここへの“憧憬”を共通して持っている。



小金井宮地楽器ホールにて

リビアでの紛争は部族間（第4階層）によるものであり、イスラエルとパレスチナの紛争はパレスチナが国家を求めるもので第3階層である。これらの紛争も大変ではあるが、これらの階層における紛争は、結局国（境）をどうするかという問題にいきつき、国連が得意とする交渉可能な分野である。

イエメンの問題は、イランがイエメンの少数派を支援し、ここにサウジが介入しているものだ。アラブ民族主義対ペルシャ主義という第2階層の問題なのでやや難しい。

ISの問題はウンマという第1階層を掲げているもので、非常に解決が難しい。国境を画定しようとか、捕虜を交換しようという話でなく、交渉自体ができない。

今、世界は欧米中心の価値観で動いている。日本の場合は「追いつけ」となったが、ISからは「なぜ1000年前世界の中心だった我々が欧米中心の世界に甘んじているのか。それは神を忘れたからである。神を思い出せば1000年前の栄光に帰ることができる」という主張がなされた。そして欧米のシステムの中で一生うだつが上がらない人たちを、この主張が急速に惹きつけているのである。これは国民国家に対する強烈な打撃である。現在の国連は、こういった課題を解決するシステムを持っていない。

今、このような解決困難な課題にどう答えるかが我々に問われている。

（塩浜 修）

旭川支部総会 事務局長交代



5月31日、午後1時半から旭川市国際交流センター共同会議室にて世界連邦運動協会旭川支部総会が行われた。佐々木靖文事務局次長が開会の辞を述べ、深澤敏男支部長の力強い挨拶のあと、荻野忠則世界連邦・北海道代表が祝辞を兼ねて「世界連邦運動の現況2015」と題する小講話をした。

議長に虻川良夫副支部長を選出。議長挨拶で「平和の言葉が乱れている。歴史的な真理の運動に、一人ひとりの声や感動を大事にして進みたい」と述べて審議入り。

平成26年度事業報告を佐々木事務局次長が、同年収支決算報告を森定美津子会計部長が、会計監査報告を小川恵子監事が行い、いずれも了承。

平成27年度事業計画案を佐々木事務局次長が説明。その中で年5回の役員会を例会（学習懇談会）とし、会員参加の機会を増やし、合わせて役員打ち合わせもできるようにしたいと提案。論議の上、決定。

同年度予算案、総額174,807円を森定美津子会計部長が提案。会員会費一人3千円に対し、本部負担金2千円というのは過重であることや、松藤名誉支部長の寄付に依存している実情についての質疑や、本部の会計事情の説明があり、原案通り決定。

役員原案を佐々木事務局次長が説明し、決定。支部長：深澤敏男、副支部長：虻川良夫・宮口伴之、事務局長：佐々木靖文、会計部長：森定美津子、理事：松野郷俊弘・林弘・牧野隆、監事：西村廣・小川恵子。

駆け付けた蝦名信幸相談役（市議）から憲法改正論議と世界の情勢について語る挨拶があり、松藤三郎名誉支部長の閉会の辞で閉会。その後「八角」にて懇談、総会持ち越しの自己紹介があり、きわめて活発に話し合われた。

（荻野 忠則）

本部と支部等の動き

5月22日 第三回理事会 衆議院第二議員会館
5月23日 第70回全国定例総会 JICA地球ひろば
5月31日 旭川支部総会 フィールド7F
6月2日 綾部世界連邦運動協会総会 綾部市役所
6月4日 近畿協議会総会 金光教泉尾教会
6月6日 神戸世界平和祈願祭 ポートピア北アイランド
6月7日 石川県連合会理事会・総会
6月14日 21世紀フォーラム講演会 講師：熊平美香

7月2日 三鷹支部総会三鷹市公会堂さんさん館
7月3日 第1回執行理事会衆議院第二議員会館
7月4日 21世紀フォーラム講演会 講師：荻野淳也
7月9日 国会委員会と自治体協議会意見交換会
7月9日 青梅支部総会青梅市福祉センタースイートプラム
7月10日 世界連邦宣言自治体協議会総会 小金井宮地楽器ホール

第44回世界連邦推進全国小中学生ポスター・作文コンクール募集開始

蔡国強氏は始めから「世界連邦推進全国小中学生ポスター・作文コンクール」が、今回で44回目の開催を迎えることになり、今年も57件応募された。中華人民共和国出身

の現代美術家。ニューヨーク在住。一貫して火薬を用いた作品制作（火薬の爆発による絵画制作）。世界連邦運動協会の支部・支部連合会・各宣言自治体や各支部と協同して各地域で募集ほか、中国文化に由来するものを各支部で審査し、展示会を開催し優秀作品の表彰を行う。

手がかりのない作品は、中央でさらに審査、展示、表彰される。
4. 応募作品は原則として返却しない、著作権は主催団体に属する。

応募作品の規程

〔ポスター〕 大きさ B3版 (364mm×515mm)

ポスターカラー、水彩、クレヨン、はり絵、ツトペン、その他

〔作文〕 小学生 400字詰原稿用紙2枚以内

中学生 400字詰原稿用紙4枚以内

テーマ

「持続可能な地球社会」の統一テーマの下で、「世界はひとつ」「人類みな家族」「地球はみんなのもの」「みんな友達」「世界連邦をつくろう」「戦争をなくすために」「地球に恒久平和を」「地球環境の保全」「かけがえのない地球」「環境と平和」「私たちの地球を守ろう」などの観点からポスターや作文を作成して下さい。

主催 世界連邦運動協会

後援 文部科学省(申請中)世界連邦宣言自治体全国協議会

募集期間

2015年7月1日～9月30日(地区の事情により若干変更あり。)

展示

地区表彰式・展示 2015年10月～11月

全国表彰式・展示 2016年2月予定

表彰

地区表彰 入賞(ポスター・作文とも) 若干名

佳作(ポスター・作文とも) 若干名

全国表彰 文部科学大臣賞(ポスター・作文とも) 各1名

特賞(ポスター・作文とも) 各3名

湯川スミ賞(ポスター・作文とも) 各1名

入賞(ポスター・作文とも) 各10名

佳作(ポスター・作文とも) 若干名

作品送付

コンクールを開催している最寄りの支部または本部(〒110-0015 東京都台東区東上野1-20-6 丸幸ビル3F)へお送りください。

【お願い】

各支部で昨年度の入賞作品(ポスター)の展示会を、市役所や図書館のロビーなどで開催し、コンクール応募者の拡大に繋げてください。要請に応じ随時作品を貸し出します。

京都支部で総会および講演会

世界連邦運動協会京都支部総会は、6月27日に京都高台寺・老舗料亭京大和を会場に盛会に開催された。ニューヨークを拠点に活躍されている芸術家・蔡国強氏を講師に迎え「異文化の交わる世界の中から」のテーマで講演があった。



五大陸にまたがる氏の精力的な国際性・哲学性豊かな取り組みを通し、幅広い社会貢献・教育育成に尽力なされておられる活動をユネスコの団体と一体となり進めておられる運動を拝聴させていただいた。「平和に国境はない」と、平和社会構築に向けて国際交流・国際支援の心の交流が常に制作においての原点であるとお話しなされ、作家として第二の故郷である日本に寄せる熱い思いを述べられ、約十年間お世話になった福島県いわき

市の人々と地域に恩返しになればと、桜ロードプロジェクトの復興支援の様子も語られた。

蔡国強氏は数々の世界の受賞歴を持たれ、日本ではヒロシマ賞(2007年)、福岡アジア文化賞(2009年)、高松宮殿下記念世界文化賞(2012年)を受賞、その他、華やかなプロジェクトに携わり、2008年の北京オリンピック・パラリンピック開閉会式も演出した。今年7月11日より横浜美術館にて蔡国強展が開催されている。

(京都支部長 品川 幹雄)

神戸で世界平和祈願祭



6月6日神戸ポートピアアイランド北公園「神戸の塔」前にて、神戸支部・神戸婦人の会主催第36回世界平和祈願祭が行われ、各界から約130名が参加した。今年も天候に恵まれ快晴であった。

生田神社の神職による祭典が行われ、斎主権宮司による世界平和祈願の祝

詞を奏上した後、巫女により神楽が奉納され、主催者、来賓、参列者代表により玉串が納められた。祭典後、主催者を代表して池上徹神戸支部長が挨拶。兵庫県知事や神戸市長の祝辞が代読され、海部俊樹会長のメッセージを本部の阿久根武志事務局長が代読。黒田一美兵庫県議会議員らから挨拶があった。次に地元選出の議員関係者からの祝電が披露された。この後、祝賀奉納行事



に移り、詩吟と朗詠が行われ、邦楽アンサンブル、ホルン等管楽器演奏、南インド舞踊、フラッグセレモニーなどが奉納され、最後に世界連邦の歌を全員で唱和した。締めくくりに平和セレモニー・風船揚げが行われ、平和への祈りを込めた色とりどりの風船が風のない青空へ舞い上がった。



(阿久根 武志)

7月9日青梅市福祉センター会議室において平成27年度青梅支部定期総会が行われた。昨年12



月に開催された藤原紀香氏の平和写真展と講演会などの事業報告と会計報告がなされ、平成27年度の活動方針・予算が了承された。佐藤雅子氏が新しく事務局長に就任することになった。

総会に引き続き懇親会が行われ、竹内俊夫青梅市長も同席し、なごやかに歓談が持たれた。

6月4日大阪大正区の人類共栄会会議室におい

近畿協議会総会

て平成27年度近畿協議会総会が行われた。関係団体を含めた活動報告と会計報告がなされ、平成



27年度の活動方針・予算が了承された。

また今年10月31日に京都府綾部で日本大会が開催され、人類学者、宗教学者、明治大学特任教授/野生の科学研究所所長である中沢新一氏が記念講演を行うことなどを、綾部市役所企画政策課主幹で同大会実行委員会事務局の土田哲生氏が伝え、多くの参加を呼びかけた。

(阿久根 武志)

6月27日武蔵野公会堂第4会議室にて、平成27年度武蔵野支部総会を開催しました。榎本重夫支部長のご挨拶の後に、榎本勝治議長が選出され、平成26

武蔵野支部総会



年度の活動報告、決算報告、平成27年度の活動方針案、予算案が審議され、つ

つがなく閉会となりました。武蔵野市議会議長、武蔵野市教育委員会生涯学習スポーツ振興課長も出席
(阿久根 武志)

青梅支部総会

のもと、出席者は20名。閉会后「武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会」の牛田守彦氏にご講演をいただきました。「隼(はやぶさ)」「疾風(はやて)」「零戦」で有名な「中島飛行機武蔵野製作所」があり、米軍の最重要爆撃目的地として、昭和19年11月24日に本土で最初の空襲を受けました。その戦争の記録と痛ましさを参加者と共有し、昨今のテロや自然災害など、あらためて平和の尊さと次世代への継承についての活発な議論へとつながりました。武蔵野市では、平成23年に空襲を受けた11月24日を「平和の日」と条例制定しました。今年は、他団体との連携を深め、これからも尚一層の市民への呼びかけを展開してまいります。

(武蔵野支部事務局長 深田貴美子)

賀川豊彦ら「日米開戦前の訪米平和工作」



世界連邦運動が始まる以前の1941(昭和16)年、太平洋戦争の兆しに誰もが不安を抱いていた頃、賀川豊彦(後の世界連邦建設同盟・初代副総裁)はじめ日本人キリスト教徒らが米国へと渡りました。賀川豊彦のほか、阿部義宗(青山学院元院長)、小崎道雄(霊南坂教会牧師)、松山常次郎(海軍政務次官)、齊藤惣一(YMCA 総主事)、河合道(恵泉女学園創立者)、アキスリング(戦後名誉都民)、米国で合流した湯浅八郎(国際基督教大初代学長)らが、カリフォルニア州リバーサイドのホテル・ミッション・インにて、「リバーサイド会議」と呼ばれる会議を行いました。日米の宗教者が、差し迫る国際的な危機的状況を打開すべく、お互いに歩みよろうとしたのです。会議は終始友好的に進行し無事に終え、賀川豊彦は母校プリンストン大学など東部への集会へ向けて出発します。実はこの時、賀川豊彦が渡米した本当の目的は、総理大臣近衛文麿からの密使として、米政府へ平和工作を働きかけることにありました。ホワイトハウス側も賀川との交渉に向けて手筈を整えていました。

賀川の渡米前、日米開戦の悪夢に悩む近衛首相は、神経の尖った軍部を避けて、ひそかに賀川と会いました。戦争回避の平和工作を依頼する目的でしたが、こんな緊迫時に怪しまれずに出向くに

は、周囲に不信を抱かれないようにしなければならず、そこで足を向けたのは有馬頼寧私邸でした。近衛、有馬、賀川の三者で膝を突き合わせ、日米開戦を不発に収めるため「近衛・ルーズベルト会談」を太平洋上でやろうと密談したのです。賀川は1935年にニューディール政策の一環で協同組合を広めるために米国に招かれ、ルーズベルトとはすでに知己の間柄でした。この「近衛・ルーズベルト会談」のアイディアは外務省情報局秘書課長だった福田篤泰(後に吉田茂首相秘書官、衆議院議員、世界連邦日本国会委員会第8代会長)が発案、企画、推進しました。

しかし賀川が滞米中、日本軍はフランス領インドシナへ第二次侵攻を行い、米政府はこれを問題視します。それが原因で賀川・ルーズベルト交渉は、目前で水泡に帰しました。賀川はこの時の事を読売新聞(1953(昭和28)年11月9日付)に『夢の対米交渉—半生の記』という回顧記事で公開しています。

賀川らの平和工作は失敗に終わりました。しかし平和の為に努力を惜しまなかった彼らの姿勢は、今日の私たちも見習うべきことなのではないでしょうか。

参考：「日米開戦前秘話」、小塩完次著『世界連邦思想の系譜』(1968年、世界連邦建設同盟発行)

(杉浦 秀典)

編集後記 ☆編集体制が変わりました。伴武澄前編集委員長のこれまでのご努力に敬意を表し、新体制で臨みたいと存じます。(阿久根) ☆8月2日で衆議院での世界連邦決議から10年。この決議の精神を実際の政治に活かすよう働きかけたい。(塩浜) ☆世界連邦の構想では、世界の安全を脅かすテロ、武力抗争などには「世界連邦警察」が責任を持って対処することが謳われているが、この構想は日本国憲法や集団的自衛権の脈絡で理論的検討を要しており、世界連邦が実現するまでの過渡的な段階での現実的な対応をどうするかが差し迫った問題となっている。(平口)

編集委員会/委員長：阿久根武志、副委員長：塩浜修・平口哲夫、委員：荻野忠則・土田哲生